



## 柏崎名誉顧問挨拶

最初に、今年3月11日に起きた東日本大震災という未曾有の災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被災地の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

この度、年次総会において会長の辞任を認めて頂きました。藤崎前会長の後を受けて2003年から4期8年間にわたり、なんとか無事に役割を全うできたのではないかと、肩の荷を降ろしてホッとしております。長いこと何かと協力を頂いた会員はじめ、副会長や幹事の皆様に感謝申し上げます。引き続き名誉顧問の役柄を仰せつかりましたので、今後とも本研究会の発展のために微力を尽したいと思っております。

来年は設立30周年を迎えますが、設立当初から「豚病」をキーワードとしてインターセクショナルをモットーに、現場目線での会運営が一貫して行なわれてきました。これは一般の研究会や学会と大きく異なる点であり、研究集会では研究成果の発表にこだわらず、現場で問題となっている話題を積極的に取り上げて情報交換を行う場を提供して参りました。こうした運営方針により幅広い情報交換が可能となり、研究ニーズの把握、技術開発の促進、現場への技術普及などに対して大きなインセンティブを与えることで、関係分野から高い評価を得ることができたと確信しております。

現在、国内には解決すべき衛生問題が山積しており、疾病リスクに対する評価システムも確立されているとは言い難い状況にあります。疾病の顕在化は生産衛生のステータスに直接にかかわることですので、会員の皆様には問題解決に向けて一致団結して取り組んで頂きたく切にお願い申し上げます。